

参加者：10名（うち女性0名）

<ワークショップの進め方について>

- ・参加者の主観で評価をとということだが、立ち位置によって全然評価が違ってくるのでは。
- ・総合計画というものを地区の方がどの程度理解されているか、ということからいくと、このやり方では非常に無理があると思う。
- ・例えば「1 結の心あふれる人づくり」についてどのようなことをしてきたかということを知りたい。

市 総合計画というものを市民の方が見られているということではないと思うが、市として進めてきたものが、しっかりと成果を出しているのかどうかを検証する参考として、例えば学校や防災といった面で生活している感覚で、うまくいっているかどうかということ項目ごとにシールを貼っていただきたい。項目ごとに施策として何を行なってきたかということだが、「1 結の心あふれる人づくり」について例を挙げると「ふるさとの文化創造事業」では郷土に関する読み物や資料を活用した道徳の学習、結の故郷中学生みこしとダンスパフォーマンス、小中連携教育の推進などを進めている。項目について、内容が分からない場合は職員にご確認いただければと思う。

- ・評価の元が分からない中で評価をするということでは意味がないのでは。やり方が荒っぽいのでは。

市 例えば「人が元気」の中では教育や福祉、防災が、「産業が元気」では農林水産業、商工業といった施策がこの後出てくる。「市役所がこのようなことを頑張ってきたと説明するが、そのようには思えない」というような肌感覚での思いを表していただきたいということが今回のワークショップの主な趣旨。時間も限られている中、項目の内容についての詳細が説明されていないが、お時間をお許しいただければご説明する。

- ・「2 9 積極的な企業誘致」とはどのようなことを実施しているのか。

市 小山地区でいうと小山工業団地を造成してから時間が経ったが企業の進出につながった。また、新たに産業団地を造成しているが、過去のオーダー団地の造成という手法では、地元との交渉や造成にかかる期間の中で企業の状況も変わって進出いただけないということもあるため、あらかじめ分譲団地を整備して積極的に企業誘致を進めたいと考えている。

- ・ワークショップを行うと聞いていたので参加者で色々意見を出す、何が足りない、どうしていくとよいかという話をすると思っていた。しかし第五次総合計画の評価をしてほしいと言われて、想定していない内容だった。シールを貼ることに何の意味があるのか。

コーディネーター 生活者の満足度を図るという意味で1点から100点という測り方は難しいと思うが、傾向をみるということで、これまで実施してきた地区のシートを見ると、青（満足）のシールが多い項目、赤（不満）のシールが多い項目についてパッと見てわかりやすいということで、一定の評価は得られると思っている。

- ・他の地区の参加者数は。
市 下庄地区が20名、大野地区が36名、乾側地区が14名。
- ・地区の住民の数パーセントが参加して行われたものが、統計的に何の意味があるのかということ。

コーディネーター このワークショップだけでなく、市民へのアンケート調査も行っている。SDGsという切り口から、総合計画そのものについてということではなかったが、20歳代、30歳代の方からの評価もいただいているところ。いくつかのプロセスを経て、少しずつ情報収集していき、新たな総合計画の策定に向けて構築していくという趣旨で実施している。

- ・趣旨は分かったが遠慮させていただく。この結果はあくまで参考資料としないと、とんでもないことになる。

市 結果については参考資料とさせていただき、パーセントがどう、というわけではなく、傾向を見ることになる。シールを貼っていただくことに固執しているわけではなく、市政のこれまでのことや、これからのことについてご意見をたくさんいただけたらと思う。

- ・評価をするにしても、これまでどのようなことをしてきたかということが分からないと評価できない。

市 大きな項目で表されているため、分かりにくいということは承知しているが、100以上の細かい施策があることから一つ一つの説明は時間の制約があり難しい。この項目ではどのようなことをしてきたのかとお聞きいただければ説明する。

- ・そのようなものを資料にしておいてもらえれば良いのでは。

人が元気

コーディネーター 行政に対してこのように感じている、この地区でこんなことがあったらよい、あるいは20年先、こんな大野だったらいいなあ、という意見があったら伺いたい。

- ・第五次総合計画を策定した当時、人口減少がある程度予想されていた。人口減少や少子高齢化といった暗いイメージの中で、いかにして夢が持てる、希望が持てる計画ができないかということで検討されてきた。策定から8年経過して現状を見てみると、暖簾に腕押しの状態だったということが率直な印象。「地域の力」がどの集落も衰えている。人が減る、リーダーになる人が減っている中で、行政は逆に地域の力を高めましようといっている。それも分かるが、現実を見たときに、地域のものは行政に依存せざるを得ない状況であると思う。自主自立、共助というのが、行政の役割としては、お互いをどうやって補完していくかということを見ると、今まで以上に行政に支援してもらうことが必要なのではないかと思う。ただ、これは現状として非常に難しいということもよく分かっている。現実を見た中で、地域のことは地域で、と、突き放すことは余計に地域が衰えていくのではないかと思う。第六次総合計画は非常に難しい計画になると思うが、少しでも大野らしさを出して、市民の方が大野に住んでよかったなと言えるようなものを目指していただきたい。よその真似をするのではなく、現実をしっかり捉えて作ってってもらいたいと強く願う。

コーディネーター まちによって状況は違うが、重要なのは互助なのかなと思う。震災の際も身体的な不自由さを抱えている方が取り残されないようにする。大野市でも行政が担うべきところがあると思うが、そのような中でも公民館を核とした地域コミュニティの中で、自分たちで工夫していることを知ってもらう、また、子どもの見守りということ言えば、小学生が交通事故にあわないよう、子どもたちが下校する2時3時に見回りがてら買い物に出ようという取り組みが行われると、まちの雰囲気が変わってくるのじゃないかなと考える。このような意見をご紹介いただけないか。

- ・介護保険事業の関係で小山、阪谷、乾側で始まっている事業がある。自分たちでできることを、お互い様でできることをしましようという事業を始めている。自助、互助、共助、公助ということは皆さんよく理解をしている。ところが、現実を見てみると、かつての集落では自助、共助ができたが、現在

は力が弱まっている。そういう中で、自助、共助という言葉が力が持たなくなってきたと感じており、ジレンマに陥っている。ただ、何もしていないのではなく、介護保険事業の中で、お互い様のところで小山地区で何かできないかということで事業を立ち上げ、月に1度10名ほどが集まって話をしている。難しい現実があり、将来あるべき理想の姿もあるが、どうやったらそこに向かっていけるのかということは未知数だということが正直なところ。

コーディネーター 住民はどのような方が集まっているのか。

- ・何かしなければ、というボランティア精神が旺盛な方が中心に集まっている。年齢層は60歳代。自分たちで何ができるか、小山地区でどんなことを求める方がいるかというニーズを把握し、どんな手立てができるかというマッチングが必要じゃないかということが、入り口の段階での話になっている。

産業が元気

- ・裁判所が移転した後、博物館をもつてくると聞いている。城や周辺施設と合わせてワンコインで入館できるようにしてはどうか、ということをご提案したことがある。

市 裁判所が駅前に移転した後、柳廼社にある民俗資料館を移築する計画がある。民俗資料館を博物館相当施設と位置づけするということを教育委員会にて進めているところ。

- ・博物館が大野城から離れており、観光客は大野城へ行くが、周辺の施設へはあまり行かない。以前、大野城で働いていたが、城へ登る道について自動車が登れるよう一方通行にしては。バスのツアーなどは大野城へ行くのに大抵1時間をみているが、20分かけて登って20分かけて降りる。城に着いたらトイレに入って中を見ずに帰ってしまう。救急車が上がるにも上がれない。一方通行で車が上げられるようにすれば、もっとお客さんが増えると思う。
- ・図書館の便が悪く、カフェを併設してはどうかと思う。また、午前、午後に分けて、大人から入場料を50円取るなどして良いのでは。冬は暖房、夏は冷房がかかっているため。
- ・越美北線について、千葉県房総鉄道のように自転車を載せられると利用客が増えるのではと思う。

コーディネーター 「25 中心市街地の活性化」について、現在の状況をみて、内容に満足されているか。

- ・今掲げられている内容について評価するのは難しい。財政が厳しい中、頑張っているのではないかなと思う。

- ・学校の中でIT化されているかどうかは、小学生がいない世帯では分からない。切り離されてしまっている世帯への施策が必要では。

コーディネーター これまで他の地区でワークショップを開催する中で、大野市からのお知らせが手元に届いていないのじゃないかという声があった。ホームページやフェイスブックのようなSNSの活用、紙でのお知らせを配っての情報発信をしている。情報の届け方についても課題になりそう。

- ・公民館報を月に1回発行しているが、見てくれている方が多い。紙の力はまだまだ必要。

その他のご意見、質疑等

- ・大野市は高齢者が多い。健康に生活できることが重要で、それを意識している方も多い。元気な高齢者が能力を発揮できる場を作ってくれたらうれしい。地域に貢献できているということが、やりがい、生きがいになっている。
- ・大野の魅力をどんどん出していき、若い人にも集まって欲しい。
- ・小山小学校では「ふれあい農園」を作っていて、お年寄りが小学生を手伝っている。参加者の楽しみ、励みにもなる。

コーディネーター 「ふれあい農園」については、「23 越前おおの型農業の推進」のほか、「1 結の心あふれるまち」、「6 高齢者の安全安心の確保と社会参加の促進」、食育などいくつにも関連する。一つを頑張って実施した結果、いくつもの効果があるということが確認できる。参加している小学生たちが20歳、30歳になったときにどんな大野市であってほしいか、ということが大人が引き継ぐべき未来ではないかと思う。

- ・小山地区には愛汗喜働の精神が根付いている。

- ・防災に関して、相当量の雨が降った場合のシミュレーションをしているのか。市 防災マップを全世帯に配布しているが、近年の気候変動を踏まえて見直し

作業を進めており、いつになるとは言えないが、完成後に改めてお配りすることになる。

・第六次の計画は10年スパンで考えているのか。

市 これまでは法律で概ね10年の計画をつくるとされていたが、現在は規定がない。市長は10年と言っているが、期間については時代の変化が早いことから、審議会、幹事会で協議していくことになる。

・先行きが不透明な時代であり、5年先なら見通せるかもしれないが、10年では「絵に描いた餅」になってしまう恐れがあると思う。成果指標を挙げて評価していく手法は無理があると思う。短期と長期を分けて考えては。

・10年期間でもよいが途中で見直せるようにしては。

市 第五次総合計画の中で「基本構想」という大きなところについては10年という計画期間がある。一方で計画の部分については5年ごとに見直しをしていたところ。

・右肩上がりの時代ではなく人口も減り、産業も衰退するなかで、どういう将来像を描いていくかということに苦心されていると思う。大変だと思うが頑張っていたきたい。

市 地域力という言葉は今後も使われるだろうが、実感として担い手が少なくなってきたことも分かっている。バラ色の計画にはならないのではないかとは思っている。その中で、大野はこうだというものを見つけられればと考えている。しかし、こちらには力を入れない、ということではできないので、どうしても広く全般的に網羅していく計画にはなるのではないかと思われる。

コーディネーター 民間企業では経営計画、事業計画を作成する。これらは3年、5年の計画を考えることが多い。昨年度実績に基づいて来年度はこうしよう、あるいは周辺の事業者の勢いを考え、自社はこうしようと考えていた。近年はこういった考えを変えていかないと生き残ることが難しいのじゃないか、ということが言われている。近年は企業の事業計画書は10年、20年で考える「企業理念」をつくっている。抽象度の高い「将来像」から、個別の事業を落とし込んでいく、ということをしている。将来このような方向に向かって動いていく、という意味での総合計画の策定だと考えている。みなさんからいただいたご意見と、貼っていただいたシールの「傾向」を参考とさせて

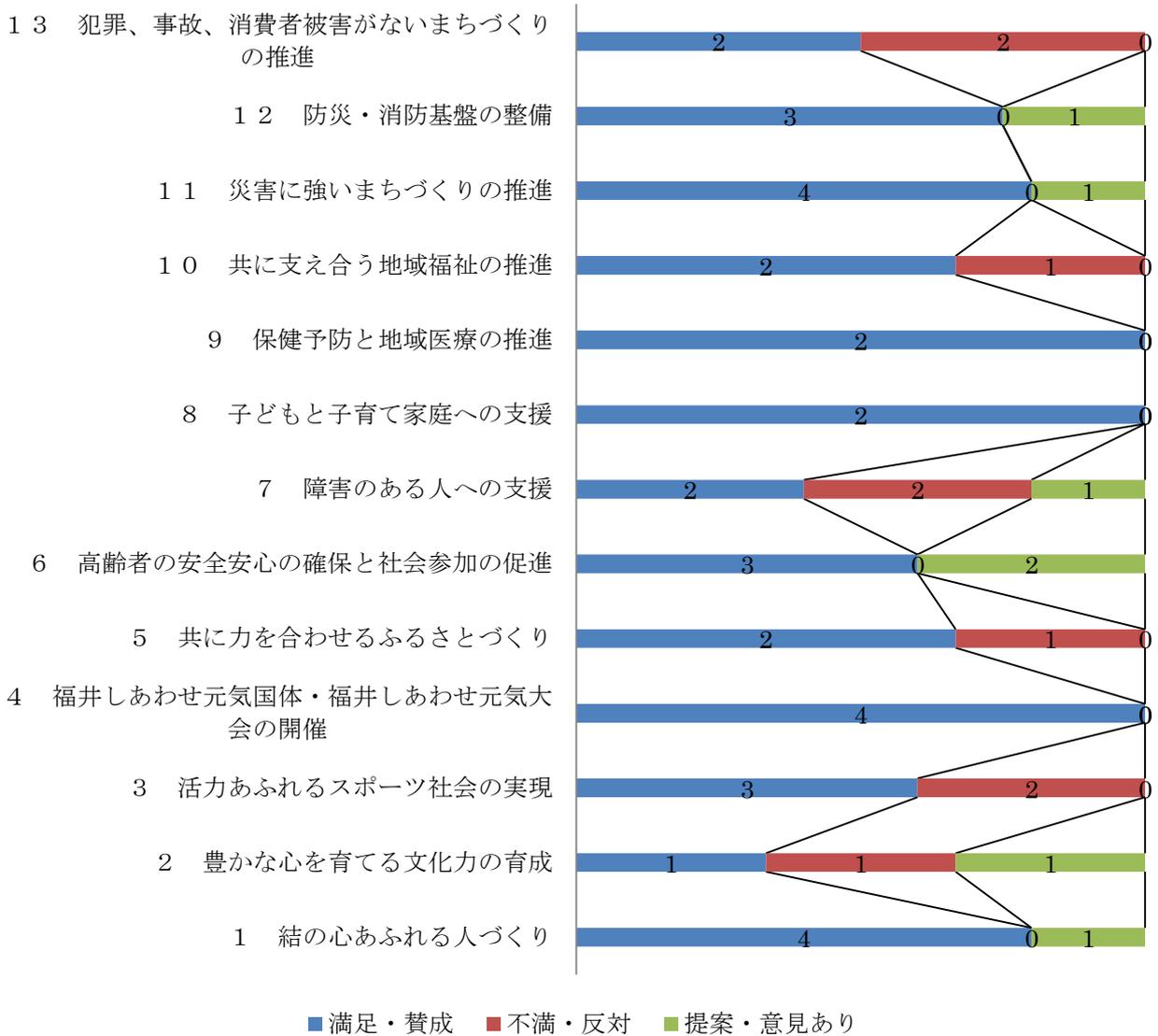
いただきながら議論を進められたらと考えている。

地区 WS のなかで意見集約の参考とするため、第五次大野市総合計画に掲載されている38の基本施策を用いて、普段の生活を通じた『肌感覚』で、「満足・賛成」「不満・反対」「提案・意見あり」のいずれに感じているかを、会場に設置したシートにシールを貼っていただきました。

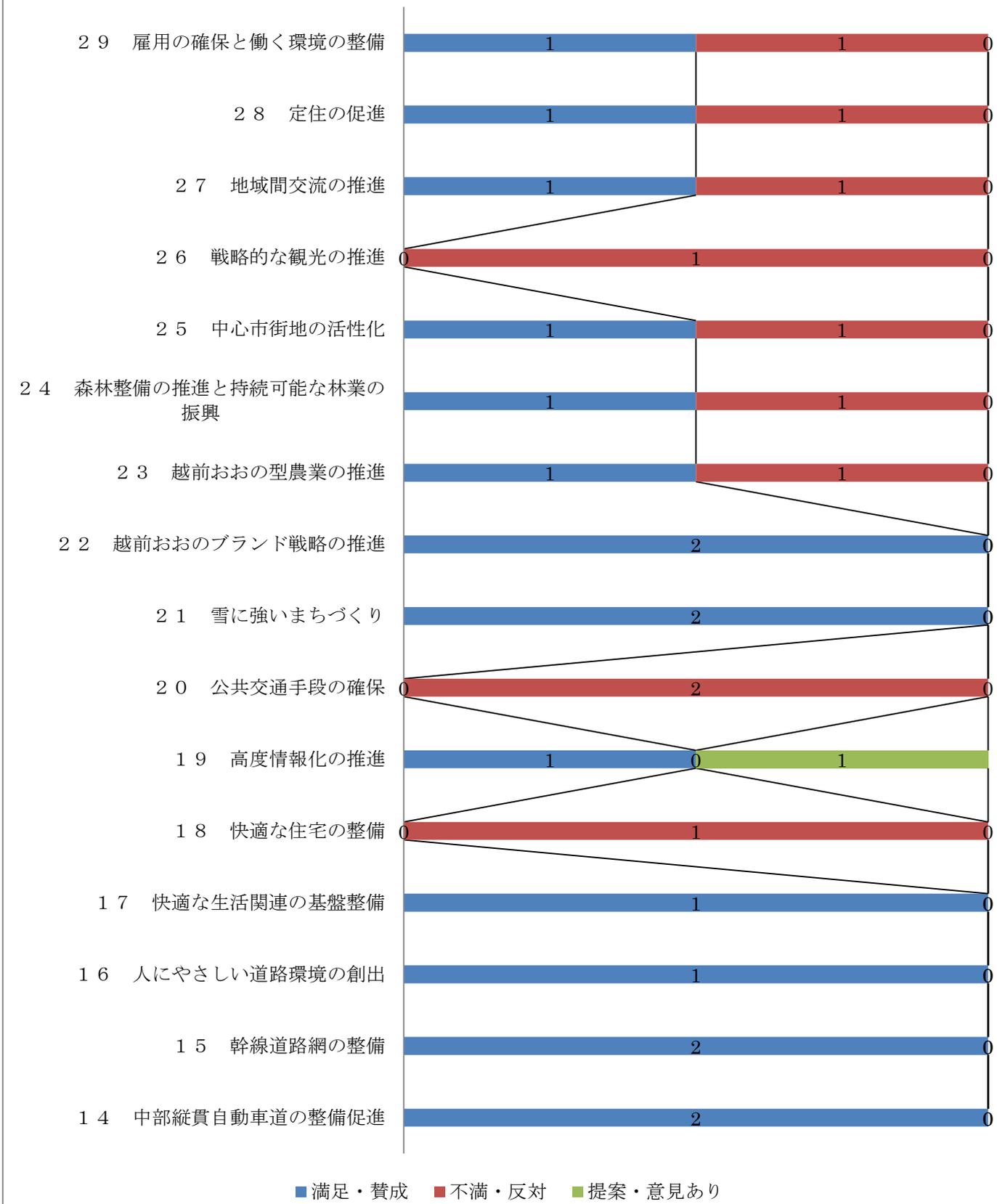
内容を取りまとめた結果は以下のとおりです。

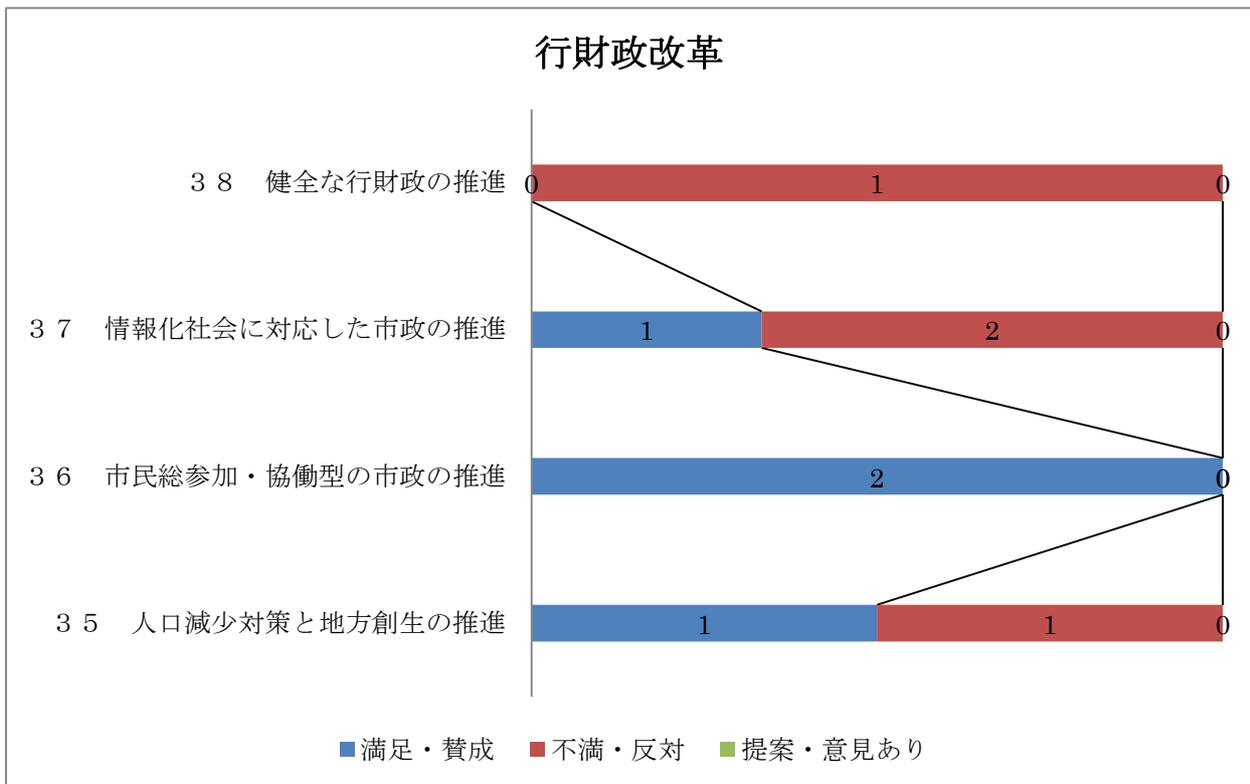
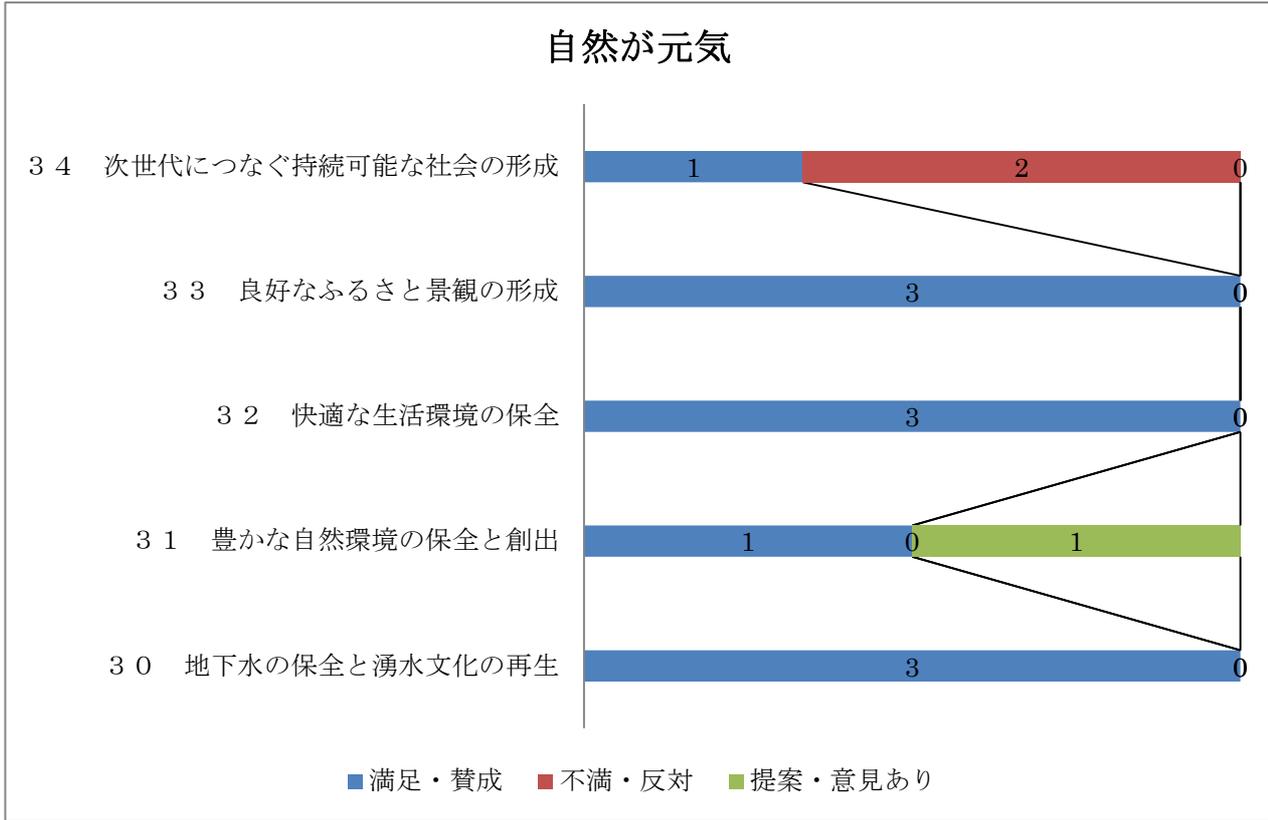
※参加された方にシールを貼っていただいたものをまとめたものですので、地区全体の意見というわけではございません。また、参加された方が全ての項目についてシールを貼られたものではございません。

人が元気



産業が元気





人が元気（開発）				
No.	基本施策	ゴール	評価	提案・意見あり
1	結の心あふれる人づくり ・学校教育、公民館活動、青少年健全育成		● 満足・賛成	
2	豊かな心を育てる文化力の育成 ・歴史・文化の継承、文化・芸術活動		● 満足・賛成	● 提案・意見あり
3	活力あふれるスポーツ社会の実現 ・生涯スポーツの充実、競技力の向上		● 満足・賛成	● 提案・意見あり
4	福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会の開催		● 満足・賛成	
5	共に力を合わせるふるさとづくり ・地区・自治会の活動、市民活動、男女共同参画		● 満足・賛成	

人が元気（開発）				
No.	基本施策	ゴール	評価	提案・意見あり
6	高齢者の安全安心の確保と社会参加の促進 ・介護予防、認知症対策、シルバー人材センター、老人クラブ、生涯学習人材活用		● 満足・賛成	
7	障害のある人への支援 ・相談支援、就労支援、児童発達支援		● 満足・賛成	
8	子ども子育て家庭への支援 ・子育て支援サービス、幼稚園・保育所、母子・父子家庭への支援		● 満足・賛成	
9	保健予防と地域医療の推進 ・健康診査・がん検診、休日急患診療所・和泉診療室		● 満足・賛成	
10	共に支え合う地域福祉の推進 ・民生委員、児童委員、福祉委員、ボランティア活動		● 満足・賛成	
11	災害に強いまちづくりの推進 ・自主防災組織、消防団活動の支援、救急体制の充実		● 満足・賛成	
12	防災・消防基盤の整備 ・河川改修、住宅耐震化の支援、消防・防災設備の充実		● 満足・賛成	
13	犯罪・事故、消費者被害がないまちづくりの推進		● 満足・賛成	

産業が元気（経済）				
No.	基本施策	ゴール	評価	提案・意見あり
14	中核縦貫自動車道の整備促進 ・中核縦貫自動車道、重点道の駅		● 満足・賛成	
15	幹線道路網の整備 ・国道158号バイパス、国道157号大野バイパス、国道478号		● 満足・賛成	
16	人にやさしい道路環境の創出 ・市道改良や補修、線の移設、歩道のバリアフリー化、自転車道等		● 満足・賛成	
17	快適な生活関連の基盤整備 ・上下水道、公園		● 満足・賛成	
18	快適な住宅の整備 ・まちなか居住の促進、市営住宅、住宅バリアフリー化の支援		● 満足・賛成	
19	高度情報化の推進 ・公共無線LAN、ICTの推進		● 満足・賛成	
20	公共交通手段の確保 ・JR越前北線、路線バス、まちなか循環バス、乗り合いタクシー		● 満足・賛成	
21	雪に強いまちづくり ・道路除雪、地域ぐるみの除雪啓発		● 満足・賛成	

産業が元気（経済）				
No.	基本施策	ゴール	評価	提案・意見あり
22	越前おおのブランド戦略の推進 ・「越の地産 越前おおの」		● 満足・賛成	
23	越前おおの型産業の推進 ・無毒活性化、耕作放棄地防止、鳥獣害対策		● 満足・賛成	
24	振興 ・地元産材や国産材の活用、林業の担い手育成、etc.などの生産促進		● 満足・賛成	
25	中心市街地の活性化 ・まちなか整備、商店街の活性化		● 満足・賛成	
26	戦略的な観光の推進 ・滞在型観光、各種イベント、海外誘客		● 満足・賛成	
27	地域間交流の推進 ・路線都市、友好市町との交流		● 満足・賛成	
28	定住の促進 ・移住定住相談、空家活用		● 満足・賛成	
29	雇用の確保と働く環境の整備 ・企業誘致、産業の振興、働きやすい環境づくりの支援		● 満足・賛成	

自然が元気（地球）				
No.	基本施策	ゴール	評価	提案・意見あり
30	地下水の保全と湧水文化の再生 ・地下水の質・量の保全		● 満足・賛成	
31	豊かな自然環境の保全と創出 ・関川などの森林整備、森づくり活動		● 満足・賛成	
32	快適な生活環境の保全 ・水質保全、公害防止、環境美化		● 満足・賛成	
33	良好なふるさと景観の形成 ・町家の保存によるまちなか景観の保全、耕作放棄地の発生防止、花のジュータンなど田園風景の保全		● 満足・賛成	
34	次世代につなぐ持続可能な社会の形成 ・二酸化炭素・ごみの削減、バイオマスの活用		● 満足・賛成	

行政改革（総括）				
No.	基本施策	ゴール	評価	提案・意見あり
35	人口減少対策と地方創生の推進 ・雇用の創出 ・観光誘客や人口減少の促進 ・安心して子育てできるまちづくり ・地域と地域、人と人の連携		● 満足・賛成	
36	市民参加・協働型の市政の推進 ・市民活動 ・情報公開 ・パブリックコメント		● 満足・賛成	
37	情報化社会に対応した市政の推進 ・情報の共有化 ・ホームページ・SNSでの情報発信 ・マイナンバー制度への対応		● 満足・賛成	
38	健全な行政の推進 ・行政改革 ・職員力、組織力 ・健全な財政		● 満足・賛成	